

受験勉強の始め方

英・数・国 こうすれば実力が伸びる

受験学年になったら、もっと「学び方」を意識しましょう。努力は当然必要ですが、同じだけがんばっても、やり方によって成果には大きな差がつくからです。

数学と英語と国語で、何を意識すればいいのか、先生たちの語るポイントをまとめてみました。

数学 Mathematics

問題を解いて解法を蓄える 数学の勉強法を正しく理解しよう

数学は大変だと漠然と思っている人が多いようです。でもよく考えてみると、絶対に覚えなければならぬ基本事項は、他の科目に比べるとかなり少ないのです。そこに気づくと、各単元の必修事項をものにするのは楽になります。まず、そこを万全にして、あとは実際に問題を解きながら「解法」を経験的に蓄えていくのが、数学の勉強のしかたなのです。だから問題演習をたくさんやる方がいいのです。

『わずかな基本知識の完全習得→問題演習たっぷり』のパターンで勉強しましょう。

● 残り時間と自分の力に合わせた勉強をしよう

わからない問題といくらでも時間をかけてじっくり格闘する……。数学の好きな人が時間のたくさんあるときにやる勉強としては、これはすばらしい方法です。しかし、苦手な人や時間のない人は、こんなことをしていたら勉強が進まなくなってしまいます。ある程度真剣に考えてもダメなら、答えを見てしまう方がいいこともあります。模範解答を理解するこ

とも、とてもいい勉強になるのです。わかったと思ったら類題でそれを試してみましょう。

勉強は苦行ではありません。限られた時間の中で結果を出すにはどうしたらいいか、常に考えて努力しましょう。

● 質問が最も大切な科目は数学だ

数学の問題を解くことはなかなか難しいものです。袋小路にはまってしまうと自力では抜け出せないこともあります。そんなとき、すっきり解決して先に進むためには、先生に質問してスマートな解法をきちんと教えてもらうに限りです。

数学では、教える側も生徒がわからないこと、質問に来ることを想定して指導を進めているので遠慮はいりません。どんどん質問してください。事実よく質問に来る生徒は必ず学力が伸びます。ただし、自分で考えてから来ることと、質問した後に問題を再度解いて復習することは怠らないようにしましょう。

英語 English

入試はなんといっても文章問題 読める語数を増やしていこう

入試で出題される英文がとて長くなっていることは聞いていると思います。公立高校の入試も例外ではありません。ですから、長い文章が読めなければ合格は厳しくなります。最終的に受験レベルの長さに対応できるように考えて、自分の読める語数を徐々に増やしていく発想を持ちましょう。少し苦しいという感じの量の新しい題材に積極的に挑戦し続けることで、読みこなせる語数を増やしていくことができます。

文章問題を解くには、文法などの自分の英語総合力をすべて動員するので、復習確認の効果も期待できます。

● 文法・語法は形式別問題集で反復練習する

文法・語法ともに夏休みが終わるころには相当の知識がたまっているはず。それらを入試で使えるように完全に自分の血肉とするには、形式別の問題演習で徹底的に鍛えるのが一番です。「またこの問題か」とうんざりすることが多くなる頃には、基本的な文法事項を問う典型的な書き換え問題や適

語補充問題などは反射的に答えられるようになります。それらは当然、模試でも入試でも頻出の内容ばかりなので効果は歴然です。英語の点数は今までより上のラインで安定してくるはず。英語の点数は今までより上のラインで安定してくるはず。

● 熟語の例文暗記は入試でキミを救う

先輩たちが「これは役に立った」と口をそろえるのが、頻出熟語の例文暗記です。熟語を覚えていると、入試でダイレクトに正解できる問題が出るばかりでなく、文法単元をクロスオーバーして多彩な例文が頭に入っているのが、構文や語順の感覚がよくなるといううれしい効果もあるのです。こんな一石二鳥のすばらしい対策はそうあるものではありません。まずは200個を目標に熟語の例文を覚えれば、その時点から英語で少し変わったという感触が得られるはず。ぜひ、がんばって覚えてみましょう。

国語 Japanese

一度の読みで内容をだいたいつかめるようになろう

英語と同じで、今の入試は読ませる量がやたらに多くなっています。文庫本にすると、本文だけで 15~20 ページぐらいを 50 分で読み、しかも問題を解かなければいけないという状態です。(難関校だけではありません。都立共通問題などでも同じです。)したがって、合格に必要な技術は、「長い文章を一度すばやく読んで概略をつかむ力」ということになります。これを可能にする集中力を 1 年間の演習の中で身につけることが、国語の最大の課題です。一題一題の読解問題に真剣にぶつかっていきましょう。

● きちんとすべてを読む習慣をつけよう

今言ったことと逆の話のようですが、もう一つ大切なのが、きちんと読む力です。ただ速いだけの読み飛ばしが習慣になっていると、入試のときに手痛い失敗をしてしまう可能性が高いのです。さて、これには心の落ち着きが必要です。たとえのんびりしている暇はなくても、「急がば回れ」の心で、細部をおろそかにせず確認することを励行しましょう。具体的には、設問や、その対象となる傍線部をきちんと読むことを心がけてください。この感覚は、国語だけにとどまらず、英語や数学での勘違いやうっかりミスを防ぐことにもつながります。効果は絶大です。

にせず確認することを励行しましょう。具体的には、設問や、その対象となる傍線部をきちんと読むことを心がけてください。この感覚は、国語だけにとどまらず、英語や数学での勘違いやうっかりミスを防ぐことにもつながります。効果は絶大です。

● 古文を早めに勉強して自信をつけよう

公立高校の国語入試問題の平均点を見ると、古文の大問は、事実上古文の力など不要な易しい問題なのに、平均点が低くなっています。苦手意識に押しつぶされてしまう人がいかに多いかということでしょう。古文は少しまじめに勉強しておく、基本問題しか出ないので点になりやすい分野であることを知っておきましょう。一学期のうちから塾で扱う機会を大切にして理解を積み重ねれば、たいした苦労もなく得意分野に仕立てることができます。これは受験でポイントを稼ぐコツのひとつです。

一年計画で理・社を仕上げよう

公立高校への出願は、大半の受験生の併願作戦に組み込まれています。公立は 5 科目入試で、理科と社会が試験科目に含まれますので、公立第一志望の生徒はもちろん、3 科の私立高校を狙っている生徒も、3 年生では理社の入試対策が不可欠です。

理科 Science

教科書レベルの知識を完全習得すれば高得点が狙える

公立高校の問題は、すべての分野を配点もだいたいそろえて出題してきます。内容は基本事項の確認がほとんどで難しくはありません。こうした傾向から、対策学習の要点は「浅くていいからすべての分野の基礎だけは理解している」状態までもっていくことです。平均点が高いので、とくに難関高校受験者は、ちょっとした学力の盲点で失点してしまうと取り返しがつきません。基礎知識の確認で差がつきやすい次のよ

うな分野に注意して、慎重に仕上げましょう。

- | |
|---|
| <p>① 教科書に載っている物理・化学などの実験に関すること。
手順・器具・目的・変化の様子など</p> <p>② 生物に関する知識</p> <p>③ 地質や天文に関する知識</p> |
|---|

これらは基本であっても覚えていなければ答えることができません。

社会 Social studies

基礎知識+図表を読む力で勝負

社会の入試対策には二つの要点があります。まずは、教科書レベルの基礎知識を幅広く習得しておくことです。具体的には、各単元とも教科書に太字で記されている事柄を、全体的な位置付けがわかった上で説明できれば問題はありません。知っているか知らないかで○×が分かる歴史分野・公民分野は、入試の分かれ目となるので知識の抜けをつくらないようによく勉強しておきましょう。もう一つは、見て解くタイプの地図・図表等の問題に慣れる

ことです。前提として日本と世界の地図の概略を頭に入れておきましょう。そのうえで図表を「読んで」情報を読み取る練習をしておかなければなりません。問題内容は易しいのですが見た目のボリュームがあるので、慣れていないとミスが起きやすくなります。こうして洗い出してみると、基本問題なりに課題はあるものですが、1 年あれば満点を狙える科目です。